

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1190800126		
法人名	(株) ユニマツト そよ風		
事業所名	越谷西ケアセンター そよ風		
所在地	埼玉県 越谷市 南荻島 565-1		
自己評価作成日	平成23年 9月 4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-">http://www.kohyo-</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成23年 9月 25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の個性を尊重し、居心地の良い環境作りと、質の高いケアを追求する。
-------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

幹線道路から入った田園地帯の一角に位置している当ホームは、併設のデイサービスとも交流も頻繁に行われている。地域との交流も良好で、地域のボランティアが傾聴ボランティアや踊りや歌を披露してくれる。近隣とのグループホームとの交流もあり、グループホーム同士で集まり、意見交換や認知症の研修を行ったり、空室状況の意見交換や、災害マニュアルを考えたりしている。グループホーム同士のトレード研修も考えており、お互いに高めあう良い機会となっている。食事にも力を入れており、見た目だけでなく、触感も楽しめるように工夫が行われており、利用者にも大好評であった。職員と利用者の笑顔あふれる施設である。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を把握し、地域交流の実践に努めている。	グループホーム独自の理念は、毎年職員と考え作成しているため、職員は理念を十分に理解している。また、法人独自の介護基本知識手帳を常に持ち歩き、日々のケアの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との定期的な交流会、店舗に利用者が気軽に行けるように努めている。	地域住民との交流関係は良好で、近隣の小・中学校や大学とも交流がある。また併設のデイサービスとも合同で、歌や踊り、傾聴といった地域のボランティアの方も来所している。	現在も良好な関係を築けているが、受け入れるだけでなく、小学校の行事にも参加するなどの交流も望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会に於いて、認知症の病理理解等の説明会を行っている。また、散歩等で地域の人々と会話する機会を持つように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、利用者状況や行事の報告、今後の取組について話を行っている。	2ヶ月に1度行っている運営推進会議には、地域包括や民生員、家族他に利用者も参加している。行事の活動報告や今後の活動予定などを話し合い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種報告を行なっている。	市との連携は良好で、高齢介護課には月1度以上相談等に伺っている。研修や会議のお知らせもくるので、職員は参加し情報の交換を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム会議に於いて、勉強会 研修会を行って、前職員が正しい理解、認識を深めている。特に施錠は行っていない。	身体拘束委員会を設立しており、職員は身体拘束をしないケアについて十分に理解している。またグループホーム会議時には実例を出し、改めて身体拘束について考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、勉強会 研修会を行い、正しい認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてのパンフレットの掲示を行い、利用者及び来訪者が手に取りやすいようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に於いて、利用者家族の意見要望を反映している。苦情相談受付表にて、家族の意見を全職員が共有し、ケア等に活かしている。	家族が来所した際には、職員が必ず話し合い、意見や要望等を伺っている。家族から出た意見は、職員全員で話し合い、運営やケアの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議、グループホーム会議に於いて職員が、自由に意見交換出来る環境を設けている。	ユニット会議やグループホーム会議等で、職員が意見交換する場を設けている。また、施設長との年1回の個別面談や普段の会話からなどからも意見を反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用の方には、契約更改制度による給与の見直しと、正社員には年一度の考課にて給与の見直しを行っている。また、処遇改善交付金制度を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対して一ヶ月のトレーニング期間を設けて実施している。また、スキルアップの為、社内研修、外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修、支社の各委員会にて交流や情報交換の場を設けている。また、介護相談員派遣事業三者会議や市内GH特定部会にて同業他者との意見交換、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れ前の実態調査にて、ご本人のニーズまた不安な事柄等を詳しく伺うようにしている。入居後も、コミュニケーションの中から、ご本人の気持ちを伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時ご家族からの要望や困っていることを具体的に聞きとり、基本情報に載せている。来訪時には積極的にお話をするようにし、ご家族の要望・関係構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同施設他サービスをご利用の方は、まず短い一定期間グループホームに遊びに来てもらい、すこしづつ慣れて頂くよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を利用者、職員で共同して行っている。また、重度利用者のお世話を軽度利用者が自主的に行う場面もある。(介護のぞく)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等のお知らせと参加を促し、家族交流の場を提供している。困難事例の場合、入浴や食事の実際状況を一緒に見てもらい、声掛け等協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者への来客は積極的に受け入れると共に談話等を楽しみやすい環境作りに努めている。買い物等、馴染みの場所へ行けることが出来るよう、支援を行っている。	誕生月には、利用者の行いたいことを伺い、馴染みの場所へ行く等の個別対応を行っている。映画や歌舞伎を見に出かけたこともあり、関係継続がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議にて、利用者間の人間関係について協議し、友好関係を促進する支援について、検討している。場合によっては、家族を含めたカンファレンスを行いより良い関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られる際は、情報提供や相談を行い、スムーズに移行出来るよう支援している。また、退去後についても職員が面会し、フォローすることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者のニーズや要望を把握し、支援に活かしている。意思疎通の困難な場合は、表情や以前の生活歴から、ニーズを探りだす。	普段の生活の言葉や仕種などから、利用者の思いや意向の把握ができるよう、聞き取り等の支援を行っている。利用者に希望を聞き、月に1度のイベントを決めることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に、ご本人や家族からいただいた情報を元に、カンファレンス等にてサービスの方向性を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録、温度表を元にユニット会議にて現状と問題点を検討し、全職員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやモニタリングを活かした介護計画や、ケアプランを行っている。	居室担当と計画作成担当があり、プランとともに介護計画を行っている。職員からの良い例なども参考にしながら、利用者にあった計画作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケースカンファレンスにて利用者の現状の把握とその共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズを把握し、定期的なレクリエーション以外に、個別レクの提供を行い、ニーズを反映したサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域施設の活用、ボランティアの受け入れ等を行い、地域交流に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更時には、事前説明会を行い、家族の理解を得ている。また、変更により、医療体制の強化が得られた。訪問歯科による職員に対しての研修も行き、近密な関係性を図っている。	かかりつけ医や往診医との協力体制は良好で、こまめに訪問し、その利用者にあった医療を行ってくれる。また通院時に看護師がつきそうなど、医療面は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH内に正看護師を配置し、日々の健康チェックや職員からの相談を受けている。医療機関との連携、ご家族との医療的相談にも応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が定期的に見舞いに伺い、ご本人の状況把握を行っている。SW等、医療関係者との連携を行い、退院時指導、退院日程の調節を行っている。看護サマリー、診療情報提供書を依頼し、日常の対応について検討。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、指針に沿って対応する事となっている。また、重度化した際、家族 医療機関 職員の三者にて話し合いを行い、記録に残す。また、職員による研修を実施して全職員が看取りへの理解を深めている。	重度化した場合は、医師や家族、職員の三者で話し合い、利用者にとってより良い支援が行えるよう取り組んでいる。施設で出来ることは行うという方針の基、職員の意識付けも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内のマニュアルに沿って対応を行うように指導している。また、急変時対応の書籍等を用意している。また、24時間受け入れ体制の医療機関より、相談指導が受けられるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定マニュアル訓練を2回実施している。	年2回の避難訓練では、日中は併設のデイサービスやショートステイと合同で、夜間はショートステイとの合同と、実践に近い形の訓練を行っている。消防署指導の下、水消火器の訓練を行うこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し敬意を持った対応・言葉遣いに注意している。プライバシーに触れるような事については、本人の尊厳に配慮した対応をしている。	プライバシーや尊厳等を守るために、言葉掛けや支援には細心の注意を払っている。否定の言葉掛け以外にも指示的、選択できない声掛けも行わないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で利用者のニーズを見出して把握している。また、食事のメニュー選び、セレクトティ等自己選択、自己決定の出来る場面を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務優先にならずに、利用者のペースを尊重し、一人ひとりに合わせた生活を送って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は洗面台にて整容をして頂き、困難な方には職員が支援している。また、化粧水や乳液を設置し、自由に使用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳、片付け、洗い物に至るまでそれぞれ得意な分野にて参加頂いている。作業終了時には、職員が感謝の気持ちを述べて、満足感や達成感を得ていただいている。	誕生日会等には外食や、出前を行うなど、楽しみを増やしている。またできることは利用者と一緒にいき、楽しみや達成感などを味わってもらっている。好きなものを作る日やおやつ作りなども好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	社内にて栄養士が作成した献立を元にバランスのよい食事提供をしている。水分摂取は好みに合ったものを用意して不足分を補っている。また、一人ひとりにあった食事形態を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと口腔ケアを行っている。また、義歯の洗浄、消毒を行い利用者に口腔ケアを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しオムツを使用せず自然にトイレで排泄が行えるよう支援している。また、定時誘導をして排泄の失敗を減らす支援をしている。	チェック表やパターンを把握し、なるべく自立で排泄ができるよう、声掛けやタイミングを工夫している。定時の誘導の結果、改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保の工夫と適度の運動を行い自然排便を促している。また、看護師により排便の促進を行っている。便秘時には医療機関と相談しながら服薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康上の支障のない限り毎日入浴されている。自分のペースで楽しんで頂けるように、入浴の順番や時間を組んでいる。	利用者の希望に応じて、毎日の入浴が夕方からも楽しめる。併設のデイサービスに入浴行くこともある。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯等季節に応じた湯を楽しむと同時に、化粧水や乳液、ヘアクリーム等も使用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとりのペースに合わせて自由に休んで頂いている。不眠の人には眠くなるまでお好きなように過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が分かりやすいようにケースファイルに薬の説明書を綴っており、直ぐに確認できるようにしている。また、服薬の変更時には申し送りノートに記載し情報の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等の役割分担により、楽しみの実現を支援している。また、健康上の支障のない範囲で嗜好品を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて買い物や散歩等、外出の機械を設けている。	利用者の希望に応じて、日々の散歩や外出などを楽しんでいる。車で近隣のショッピングモールや花見に出かけることもある。要望があれば、夜に車でドライブにでかけることができる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の買い物は自分で商品を選んで頂きご家族様よりお預かりしたお小遣い金より精算している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の状況により電話を使用させて頂いている。また、携帯電話を使用し自由に連絡出来るようにしている年賀状や暑中見舞いも送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは生活感と季節感を感じて頂けるよう装飾に心がけている。職員は利用者様が不快に感じない様できるだけ不快音を立てない様心がけている。	共有フロアは、広い間取となっており、大きな窓からは季節溢れる景色を見ることが出来る。装飾にも事細かな気遣いがあり、季節感はもちろん、近隣の小学校から送られた生徒の作品のプレゼントなども飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の置き場所や席が決まっていて安心して過ごせる環境を作っている。各自が自分の居場所を持っていて気の合う利用者同士で生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり大切な物や好みの物を持参していただき生活しやすい居室の環境作りをしている。	利用者が楽しく、快適に生活出来る様に馴染みの物を持ち込んでもらったり、配置に工夫を凝らしている。一人ひとりにあった居室作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとにのれんを使用し利用者様が分かりやすいようにしている。浴室にものれんを使用し目印にしている。		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員が作成し、理念の掲示していると共に把握している。地域交流の努力を行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校との交流の機会を設けている。ボランティアの受け入れを積極的に行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方に対しての理解や支援について説明を行なっている。センター周りを散歩など行ない地域の方とふれあいの機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告・活動報告・利用者状況報告を報告し現状についての報告も行なっている。ご家族様から意見や提案を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種報告を行なっている。困難な状況については相談し対応している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議にて研修会・勉強会を行ない職員の意識改革、適切な対応の仕方について理解して頂けるよう努力している。必要最低限施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、身体拘束同様勉強会・研修会を行なって適切な対応について理解して頂けるよう努力している。疑わしい行為があった場合随時報告するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修において成年後見制度について研修を行なっている。成年後見制度について入口前にパンフレット設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等、利用者・ご家族の意見をお聞きするようにしている。 ご意見は各会議等にて取り上げ、ケアや業務に反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・グループホーム会議を毎月行ない意見や提案事項を討議している。討議結果をうけて、改善を行ない日々の業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用の方に関しては契約更改制度による給与の見直しを行なっている。正社員は年に一度考課にて給与の見直しを行なっている。介護職員処遇改善交付金の対応。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は1カ月のトレーニング期間として設けている。各職員のスキルアップも兼ねて社内研修・外部研修への参加を促しを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や委員会を通じ、社内他施設とのネットワークを構築している。 また、介護保険サービス事業者連絡協議会に参加し同業他社との情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査情報を基に利用者様とコミュニケーションを図りご本人様の思いや気持ちを伺えるようにし、ケアの方針に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時にご家族様の困っている事等を伺い入居後の状況について報告・相談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望があれば、入居前ホームに少しでも早く馴染んで頂けるよう、同施設のショートステイをご利用頂きグループホームへ遊びにきてもらう等ということもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で利用者様が出来る範囲の作業（家事や身の回りのことなど）を行なって頂き職員も共同で行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等にご参加頂けるようご家族様にインフォメーション等送付して参加頂けるようにしている。来訪時には日常の様子を伝えご家族様からも意見提案を頂き援助を行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様宛にご友人や知人から連絡があった場合や訪ねて来られた際は受入れを積極的に行なっている。誕生日個別レクリエーションなどご利用者様に馴染みのある場所を選び外出している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議や申し送りノートを通して利用者様同士の関係について、情報の共有をはかりより良い関係構築のための支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際スムーズな対応が出来るよう情報提供・相談を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、家族から暮らし方の希望や意向を伺うようにし要望に沿った生活が送れるよう支援している。また、現在の意向の把握が困難な場合は、家族から伺った本人の生活史などを基に、本人本位に考えてケアにあ		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、馴染みの生活環境や好みを伺い、経過記録に記入し、ケアカンファレンス等で集めた情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を経過記録・温度版に記録し申し送り等でも細かく伝えるようにしている。ケアカンファレンス等で職員からあがった情報を共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度モニタリングを行い援助にあたり注意する事また本人及び関係者の意見をケアカンファレンスを通して職員間話し合い意見や提案の結果をもとに介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の現状を月々のケアカンファレンスで取り上げ介護計画書をもとにケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別レク等を定期的に行ない、ご本人の行きたい場所、食べたいもの、行ないたい事の実現を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店等へ行ける機会を増やせるよう取り組んでいる。地域行事参加も増やせるように検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月各ユニット2回の内科往診。訪問歯科の定期受診月1回となり緊急時は受診日以外でも来ていただいている。週に1回歯科衛生士から口腔ケアを受け入れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに正看護師を配置しており日々の利用者様の健康状態チェックし処置等行っている。往診・通院を中心となつてに行い医療関係内容のご家族様への報告連絡相談を看護師が行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が随時お見舞いへ伺いご本人様の状況・状態等他の職員へ報告している。退院時は、退院前に指導を頂き看護サマリー診療情報提供書の提供を依頼するなど、退院後も安心してお過ごし頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状対応者おらず。社内の重篤化の指針に沿って援助を行っていく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内マニュアルに沿って対応を行うこととなっており職員全員が見やすいよう掲示している。又24時間医療機関との電話連絡がとれるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(日中・夜間想定)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対して親しいなかにも敬老の念を心掛けた言葉かけをおこなっている。又、プライバシーに関わる対応時は細心の注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人様の思いを聞き入れ自己決定、自己選択しやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースに合わせ食事の時間・起床・就寝の時間などその人らしく暮らしやすい環境作りをしていけるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時の整容・洗顔など声掛け行っている。時々レク等で、お化粧など行ったりお洒落が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度について利用者様のレベルに合わせ出来る事はして頂き配膳なども一緒に行っている。又、月に数回のお好みメニューとしなかなか施設では提供していないものや好きなものなど提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	社内栄養士が作成した献立表をもとにバランスの良い食事を提供している。水分摂取に関してはお茶が苦手な方に対して好む物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて訪問歯科の指導のを受け口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態をケースファイル・排泄チェック表などにて把握し出来るだけ自分で行って頂けるようにしている。また、認知症や身体的理由により介助が必要とされる方においても、自立に向けた支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より、水分摂取や運動をお勧めしているが、便秘の解消が困難な方に関しては、看護師が、浣腸や服薬のコントロールを医師との相談のもと行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースやタイミングに合わせてご希望にそってゆっくり、ご自分のペースで入浴して頂いている。ご本人の希望に応じて毎日入浴されるかたもいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、自由に休んで頂いている。不眠の方に対しては、その人が落ち着いてゆっくり出来るスペースにて過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルにお薬の綴りがあり、お薬の内容目的副作用が分かりやすいようにしている。又、薬の変更時には申し送りノートを活用し職員間共有している。症状等の変化があった場合医師へ連絡し指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味・生活歴・趣味を活かし、パズルや本を楽しんで頂いている。散歩や外出などを取り入れ気分転換して頂けるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じて外出や散歩の機会を設けている。大きな行事についてはご家族様の協力も頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が要望されれば、ご家族と相談の上、金銭の所持が可能である。 お小遣い金を施設管理で預かっており、日用品やお出かけの際に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様のその時の状況に応じて電話を使用して頂いている。年賀状を本人よりご家族様へ送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアを季節感ある装飾をするようにしている。日めくりカレンダーを活用し日にちが分かるようにしている。職員は利用者様が不快や混乱が起きないよう大きな物音がしないよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが落ち着く場所を持っておられる。気のあった利用者様同士で会話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望やお好みの物をご家族様に持参して頂くよう連携を行っている。又、買い物時利用者を選んで購入してもらった場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のお部屋が分かりやすいのれんや装飾を行っている、浴室入口にはお風呂場が分かりやすく気分を味わって頂くようようのれんがある。		